

平成20年度秋学期 島根県立大学「21世紀・地球講座」開講科目

会場:島根県立大学講義・研究棟 中講義室5

【講座1】石見地域ツーリズムの未来

島根県と石見地域の観光をめぐる動きが活発化している。また、「子ども農山漁村交流プロジェクト」の展開は、田舎ツーリズムの取組を促進する契機となる可能性を秘めている。このような流れを受け、石見地域のツーリズムを持続的に発展させていくにはどうすればよいのだろうか。地域の歴史や文化、資源の活用など、従来の観光研究に限定することなく、多角的に考えていく。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
1	林 秀司	ツーリズムの動向と石見地域	2006年には観光基本法を全面改正する観光立国推進基本法が成立するなど、観光振興は国の政策のひとつの柱として位置づけられてきた。こうした近年の日本の観光をめぐる基本的な動向を整理するとともに、石見地域の観光振興におけるツーリズムの意味を考えてみたいと思います。	10/15 (水) 18:20～19:50
2	瓜生 忠久	映像で地域の魅力伝えるには	最近よく耳にする「地上波デジタル」。「デジタル化」は、地域文化の記録、伝承、さらには日本全国への発信チャンスととらえられることもできる。地域を知り、理解してもらう媒体としての使い方など、地上波・衛星各テレビ番組を参考に新たな提案を試みる。	10/22 (水) 18:20～19:50
3	有馬 誉夫 (ふるさと島根定住財団)	「田舎ツーリズム」が地域を元気にする	「田舎ツーリズム」は、島根県全域の問題として、今住んでいる自分たち地域の課題として取り組もうとする姿勢をあらわしているし、他の地域の人たちとの文化の交流、お互い生活者・人間としての対話、人と人との行ったり来たりが活発になることへの願いを込めている。また、その理念を、自然の中にある「生命」、その恵みをいただく営みとしての「生産」、それらを受容する「生活」においている。	11/5 (水) 18:20～19:50
4	豊田 有恒	石見の文化資源を生かす一人磨と雪舟の生涯から	金城出身の島村抱月は、石見の国は「歌聖人磨と画聖雪舟に萬代不滅の足跡を遺させた」と評している。石見国府に勤務し、多くの秀歌を遺し、石見で没した人磨、50代で中国に渡り、帰国後は造園と画業に後進を指導した雪舟、この二人の偉人の生涯に学び、縁のあった石見の振興に役立てない手はあるまい。	11/12 (水) 18:20～19:50
5	井上 厚史	石見銀山街道とツーリズム	世界遺産に登録された石見銀山は、地域観光の目玉であるとともに、石見地域活性化の拠点になることが期待されています。石見銀山をもっと有効活用するにはどうすればいいか。この問題に取り組んだ県立大学生が目にしたのが、島根県、広島県、岡山県をつなぐ「石見銀山街道」でした。昨年12月から取り組んできた学生たちの汗と涙の奮闘記と、その成果をご紹介します。	11/26 (水) 18:20～19:50
6	大崎 加老志 (社島根県観光連盟)	石見地域ツーリズムへの提言 一先進地域の経験から	昨秋の島根県観光支援プロデューサーとしての着任から約1年、石見地域の見ると・食べる・遊ぶ(るるぶ)を基本に実体験し、外部からは見えなかった地元の方の思い入れも垣間見えます。幸いにも、観光業の発業務から、添乗、企画、イベント、広報、誘致、そして、受業務までを職歴として経験できたことから、観光受地としての石見地域の過去と現在を検証し、将来あるべき姿を想定したいと思います。本講座が「なつかしの国石見」サクセスストーリーの端緒になればと願っております。	12/10 (水) 18:20～19:50

【講座2】無限に広がる本の世界

豊かな知を育む本の世界を楽しむ。今回、具体的な本を知り上げてその作者についても紹介し、作品の書かれた背景も解説しつつ作品の魅力伝えていく。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
A	三保サト子 (松江キャンパス)	古典文学を読む楽しみ 一源氏物語1千年紀に寄せて	源氏物語は楽しい。ロマンチックでエロチックで、しかも極めて政治的・現実的である。作品が書かれてから千年、いまだ源氏は世界の権威となった。世界中の言語に訳され、世界最初の長編心理小説として仰がれている。せっかく日本に生まれて、これほどの作品を読まずにいるのは、何とももったいない話。ご紹介したいことがありすぎて目移りしますが、今回は、権力に趨く人間の姿に焦点を合わせて読んでみようと思います。	10/18 (土) 13:50～15:20
B	豊田 有恒	ガイアの復讐	ジェームズ・ラブロック「ガイアの復讐」は地球温暖化を警告した最も早い時期の論文のひとつである。日本では、東大の松井孝典氏が、「ガイア理論」として紹介し、各方面で取り上げられたが、一度原典にあたってみるべきであろう。	10/25 (土) 13:50～15:20
C	別枝 行夫	「時代小説を読む」 山本周五郎・藤沢周平・宮部みゆき	本を読まない人・映画を見ない人・音楽を聴かない人は人生の三大娯楽を放棄する不幸な人です。目的がはっきりした読書は他の担当者に任せ、私は優雅なバスタイムのための軽い読書の楽しみを話します。今回は時代小説にしばらくします。	11/8 (土) 13:50～15:20
D	井上 治	旅行記/探検記をよむ ～梅棹忠夫『モゴール族探検記』	旅行記や探検記を読む効用の一つに、活字を通して豊かな発想に育むことがある。また、自分の知らない場所や人々、その文化へと誘ってもくれる。この講義では、著者やあらすじを簡単に紹介し、私が考える旅行記/探検記の読書ポイントを示したいと思う。	11/15 (土) 13:50～15:20
E	村井 洋	吉田満『戦艦大和の最期』を読む	「アジア太平洋戦争期を描いた戦記文字の傑作の一つ」と評される『戦艦大和の最期』を、大和出撃の背景、作者吉田満の戦後の生き方などを視野に入れながら読み解きます。	11/29 (土) 13:50～15:20
F	渡辺 有二	イギリス女性運動史	第1期フェミニズム運動の古典的名著とされるRay Strachey, The Cause, (1928) (レイ・ストレイチャー『イギリス女性運動史 1792～1928』みすず書房、2008年)をとりあげ、イギリスにおける女性参政権運動と大学教育、社会問題などとの関連を中心に、新たな研究成果をふまえながら再検討し、その後の運動の展開についても考察します。	12/13 (土) 13:50～15:20